

建設中の「新行政首都」を遠方から望む。アフリカで最も高いビルをはじめ、ビジネス地区の高層建築群が威容を誇る

CITY IN THE DESERT

# 砂漠に浮かぶエジプトの未来

PHOTOGRAPHS BY **NICK HANNES**





ビジネス地区で建設中の高層建築群を前にたばこを吸う建設労働者



新首都計画を推進するシシ大統領の写真パネルの前方で祈りをささげる男性。計画自体が大統領の「レガシー作り」という批判もある



エジプトの首都カイロから東に約50<sup>km</sup>。700平方<sup>km</sup>に及ぶ広大な砂漠地帯で、首都機能を移転させる「新行政首都」の建設が進んでいる。大統領官邸をはじめ、全ての省庁、各国大使館、大学、大手銀行や企業の本社がこの砂漠の都市に集結する予定だ。ここでは各種センサーやモニタカメラによって全てのインフラ施設・設備、交通の流れ、大気汚染などの情報が集められ、集中的に管理される。居住者は電子マネーと住宅や自動車のカギなどが一体化したカードを支給され、エジプト初のスマートシティが実現するという。

層が移住する計画だ。現在のカイロの街で60%の住民が違法建築に暮らし、慢性的な交通渋滞や劣悪な治安、環境汚染に悩まされ続けているのはあまりに対照的だ。写真家ニック・ハネスは、建設中のこの新都市とエジプトの新たな社会問題を写真に収めた。多くの国民が貧困下で暮らすなか、光輝く新首都は一層拡大する格差問題の象徴となるかもしれない。 [N]

新首都・第5居住区の建設に従事する労働者が休憩所で昼食を取っている(右)

「凱旋門」の建設現場でタイルの間の溝を埋める作業に当たる労働者たち(左)

南スーダンからの出稼ぎ労働者たち。後方にはビジネス地区で建設中の高層ビルがそびえ立つ(右)



建設現場には「安全第一」と書かれた大きな看板が掲げられていた(中央)



建設中のモスク(イスラム礼拝所)の前を通って帰路に就く労働者たち。完成すれば10万人を収容する世界最大級のモスクとなる(左)



完成したばかりの第3居住区の人けのない歩道で、スカーフを広げる男性。人口過密で慢性的な問題を抱えるカイロとは対照的な光景だ



新首都を貫く16レーンの幹線道路。今はまだ自動車は一台も走っていない。既に省庁など一部の機関の移転は始まっている

▶ Photographs by Nick Hannes-Panos |

撮影:ニック・ハネス 1974年、ベルギーのアントワープ生まれ。1997年にアントワープ王立芸術アカデミー(KASK)を卒業し、フォトジャーナリストとして8年間活動。その後、報道とは距離を置き、マスツーリズム(大衆化した観光)、都市化、移民、紛争がテーマの作品を制作しながら、母校のKASKでドキュメンタリー写真を教えている